

東京 IPO 特別コラム

2018年4月16日 Vol.120

AI 関連銘柄のニューヒーロー登場

今年のテーマ株の一つであるAI（人工知能）関連銘柄への関心が高まりを見せてつあります。過去のIPO銘柄では自動翻訳にAIを活用してビジネス化を図ろうとしているロゼッタ（6182・マザーズ）が代表的ですが、同社は前2月期業績を下方修正（経常利益50百万円を14百万円の赤字に修正）、子会社エニドアののれん代の減損処理でEPSは122円の赤字に転落。今期は業績予想を非開示とはしていますが、売上高20億円、営業利益2.26億円以上になるとの見通しだけは示しています。この結果、このところ戻り歩調だった株価は一旦売られています。17日に開催されるアナリスト向け説明会でその詳細な内容が明らかになれば再び見直しの可能性があります。同社株は2015年11月の上場後の2016年5月にAI関連の銘柄として理想買いで高値をつけましたが、その後はやや停滞気味に推移。今回のAIによる翻訳精度が一気に上がったことを背景に急激なステージの変更が始まったとやや興奮気味に対外的な発表を行っています。既存の翻訳業界との提携も視野に自社サービスの普及に邁進しようというのが同社の戦略と言えますので今期以降の業績は未知数ながら大いに期待したいと思います。

このほか、AI関連銘柄はシステム系などを中心に多岐に渡っており、シルバーエッグ・テクノロジー（3961・マザーズ）、チェンジ（3962・マザーズ）、ユーザーローカル（3984・マザーズ）、サインポスト（3996・マザーズ）など直近になってIPOした企業の取り組みが目につきます。とは言え、AIをテーマに事業として取り組む前にはかなりの先行的な開発投資が必要になり、それがうまく行って業績が大きく浮揚していくには一定の時間も必要になります。いわば期待先行のテーマなのかも知れません。ですからロゼッタのように先行的な開発にコストをかけた結果、想定以上に早く成果が生まれたという事例はある意味、画期的なことと言っても良いかと思われます。見かけ上はまだ業績の数字には表れてこないのかも知れませんが振り返ってみるとあの時が成長のスタートだったと言われるような出来事が発生しているのかも知れません。

こうした中でAI関連のビジネスを展開して収益拡大が顕著になってきた銘柄として今週20日はHEROZ（ヒーローズ）（4382）がマザーズに上場。社名の通りAI関連のニューヒーローと言えます。AIを活用したインターネットサービスの企画・開発・運営を行う同社は公募17.22万株（公募価格4500円）をIPO時に発行。投資対象額は7.7億円に限定されますので好需給で人気化が予想されます。公開時の時価総額は150億円で今4月期の推定経常利益は4億円。東京IPOのデータでは直近の業績が急拡大中で時価総額は初値ベースで数百億円が想定されます。これによって、やや穏健な推移が見られるロゼッタなど一連のAI関連銘柄が再び注目されるものと期待されます。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）